

県土整備部の「本質」とは？

1. 「仮説」を「現実」に変える仕事

明日もいつも通りに道路が通行できること、いつも通りに通勤通学ができること、いつも通りに電気・水道などが使えること、いつも通りに公共交通機関が利用できること、いつも通りのことがいつも通りにできること・・・

「明日」という日は、こうした数え切れない「仮説」が当然のごとく「現実」に変わることが前提となっています。つまり、社会資本整備を担う我々の仕事は、1日も休むことなく「仮説」を「現実」に変える仕事という見方もできるのではないのでしょうか。

2. ひとの「心」を運ぶ・つなぐ仕事

例えば、私たちが毎日使う道路。道路は毎日たくさんの人が利用します。つまり、利用する人の数だけ「心」が通います。大切な仕事に向かう道、大切な家族が待つ自宅へ向かう道、かけがえのない命を救うために負傷者等を救急搬送する道、小さな子供達が元気よく通学する道・・・

社会資本を担うということは、こうした『ひとの「心」を運ぶ・つなぐ仕事』という責任を背負うことだと考えています。

3. オフェンスとディフェンスのベストミックス

オフェンス（攻め）とディフェンス（守り）。我々の業務は必要な社会資本を整備しなければならない（オフェンス、攻め）という使命と、整備した社会資本を維持管理しなければならない（ディフェンス、守り）という大きな2つの使命を担います。しかし、「維持更新時代の到来」と言われて久しいように、維持更新費用は今後ますます増加していくことが確実視されています。こうした中、維持更新力（ディフェンス、守り）をますます強化していかなければならないことは言うまでもありませんが、必要な社会資本を整備する力（オフェンス、攻め）を弱めることも許されません。オフェンスとディフェンスの調和を図り、その結果として組織としての「総合力」を高めていくことが今後の社会資本整備に求められている重要な要素の一つです。

県土整備部の「本質」とは？

4. 郷土の未来を創造する仕事

我々が担う社会資本整備は構造物の外見的特徴などから「コンクリート」に例えられることがあります。我々が社会に残すものの「外見」は構造物（コンクリート等）ですが、そのしっかりとした土台（コンクリート）の上に郷土の未来を創っていくことが社会資本を担うものの使命だと考えています。地域の課題をしっかりと見据えた「創造力」を磨いていくことも重要な視点と考えています。

5. インフラストラクチャー（Infrastructure）

県土整備部の英語表記（Department of Land and Infrastructure）にも使われていますが、インフラストラクチャー（Infrastructure）とは「下支えする」という意味で、一般的には経済活動の基盤をなしている「社会資本」を指します。

つまり、県土整備部の業務とは、日々の生活や経済活動の基盤をしっかりと支えること、「そこに存在して当たり前なもの」を「当たり前のものにし続けること」が組織名にも込められた業務の「本質」の一つだと考えています。